

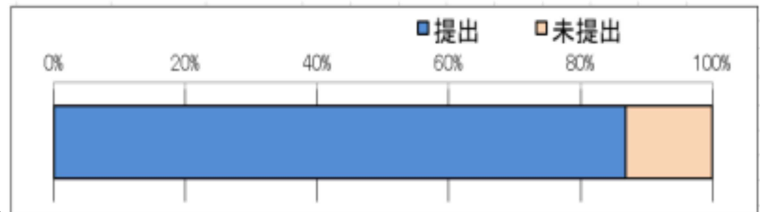
令和4年度教育行政アンケートの結果について (ダイジェスト版)

令和4年10月実施
葛尾村教育委員会

【村の教育への関心】

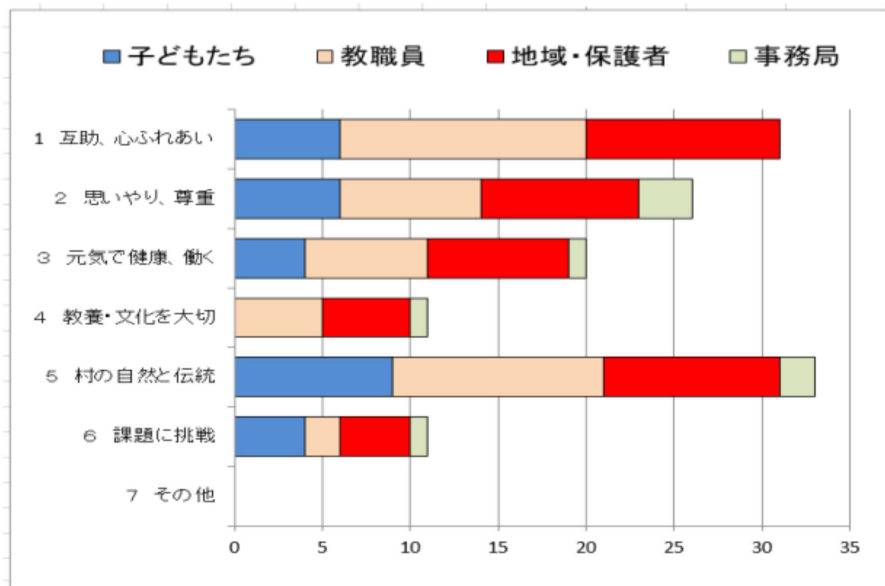
1. アンケートの提出状況について

アンケートは、69名（小中学生、教職員、保護者、地域住民、教育委員会事務局）に依頼。一般回答者の7名を含め、66名からの回答をいただきました。提出割合は85.5%でした。



【村の教育全般に関して】

2. 葛尾村は、どのような村でありたいですか



子どもたちをはじめ、みなさんの傾向は大きくは変わらず「ふれあい」「村の自然・伝統」「思いやり」などを大切にしたい村でありたいと考えています。上位の4項目については、昨年度と同じ結果ですが、1位だった「ふれあい」と2位「村の自然・伝統」が入れ替わりしました。

3. 葛尾村の素晴らしいところは、なくしてはいけないものは、どのようなものですか（抜粋）

（児童・生徒）

*（ ）内の数字は人数

◎優しい人がたくさんいる、無くしたくないのは、葛尾村の人たち、人が優しい全員がやさしい（8）

○自然が多い、素晴らしいところ、自然は無くしたくない、生物が多様なところ

○キッズクラブでみんなと遊ぶこと ・がらがらどん ・あさのうた

・給食がおいしいところ、お家の近くで遊べる場所

・みんなが元気で、いつも協力してくれる

・震災からの約11年間の復興で得たことは失いたくない。昔からつないできた歴史や自然、伝統は失いたくない

・夜空の星の数々、木々の風景、動物とのふれ合い

（保護者・地域住民・教職員）

《自然》

◎自然豊かな里山の風景、景観、水、森（7）

○おいしい空気と綺麗な水、景観

・ 静かな生活環境

- ・ 先人の皆様の思い「葛尾村戦後開拓民のあゆみ」を読みました
- ・ 阿武隈高原特有の自然があること。その上で、縄文からの歴史があること
- ・ もっと自然と寄り添うべきだと思う

《人間性》

◎村民相互に助け合う人柄の良さ、絆（3）

・ 人間性の良さ

○お互いを思いやり、互助の気持ちを持っている

○人と人とのつながり、相手を思いやる人柄

- ・ ご近所づきあい。私の地元ではなかったので驚いた
- ・ 温かい心を持った人情味のある人たちが住む村
- ・ 村の人は人情深く、気さくに声を掛け合うからつながりが絶えないのだと思っています。挨拶は、年齢問わずできること、昔の人の教えだと思います。大切にしたい
- ・ 子どもたちが素直で優しいこと、子どもたち一人一人が活躍できる場があること
- ・ 村の人口は確かに少ないですが、地域の皆さんがとてもお元気で生き生きしている。またお互いがとても仲良く和気藹々とした様子が見られる
- ・ おおらかさ、小さなことに心をすり減らさない

《伝統、教育など》

◎村のさまざまな伝統。伝統を守っている（5）

- ・ 人、自然、歴史、文化（祭り、食、営み）
- ・ 大人の温かいまなざし
- ・ 村の積極的な特産品づくり、大学などとの共同研究、豊かな自然
- ・ 自然と歴史。自然の中での能も毎年やってほしいです

など

多くの方々が、「人の温かさ」「つながり」「自然の美しさ、豊かさ」（ここが増えていきます）を挙げ、「伝統（文化財や郷土料理など）」と続きます。昨年度と大きくは変わりませんが、コロナ禍で交流が制限される中、あらためて「ふれあい」「学び合い」などの交流の大切さが再確認されることになりました。



4 「このような葛尾村に住みたい、と思う村をめざすために、自分はどのようなことに努めることが大切だと思いますか（抜粋）

（児童・生徒）

◎べんきょうとあいさつをする、元気にあいさつ、あった人にちゃんとあいさつできるようにする（5）

- ・ うんどう、べんきょう、しみちゃんをはやらせる
- ・ 葛尾村のことを勉強して、発信していくことが大切だと思う
- ・ ひとにはやさしくする
- ・ 自然を大切にする
- ・ 総合の学習で、葛尾村のことを調べて発表しているので、調べたことを他の人に広めたい
- ・ 葛尾の良さを発信する
- ・ 村の行事に参加する、あいさつする
- ・ 積極的にイベントに参加して盛り上げられるようにしたい

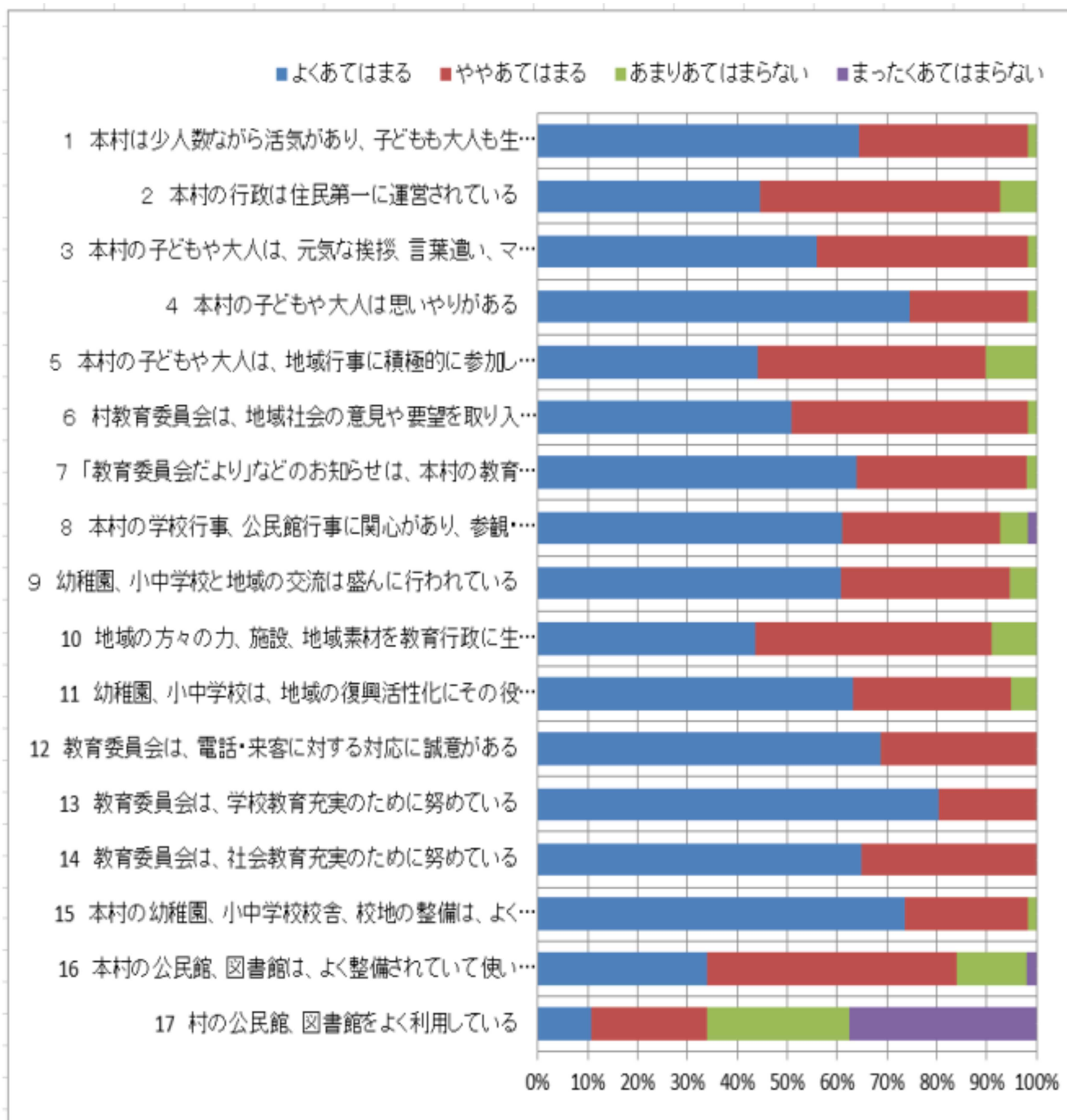
（保護者・地域住民・教職員）

- 葛尾村の良いところの発信。さらに教育活動を通して笑顔を絶やさず、心豊かでたくましく生きる態度を育みたい。
- 人や自然との関わりを増やすために、積極的に挨拶をしたり、行事に参加したりしていきたい
 - ・人に親切にし、自分が楽しむこと
- ・前向きに生きること。一日一日を充実させること。挑戦すること。多くの方を巻き込む
- ・情報の共有
 - ・文化の掘り起こしと継承
- ・困っている人を助ける。村の人と仲良く。イベントに参加する
- ・自分ができること、関係を持てることを「精一杯」取り組むよう努める
- ・自助できることは、元気に健康でいろいろなボランティアに参加して交流すること
- ・「老いては子に従い」という言葉のように、若い人たちの目指すことにできるだけ協力したいと思います
 - ・村のことをもっと知ること
- ・乳幼児の保育の充実を、自分のできることで実現できたらと思います
- ・美しい村づくりへの協力。村を訪れる人や住み始めた人に優しくする。お年寄りを大切にし、子どもを守る
- ・村で仕事をする（？）
 - ・定住すること
- ・多様性を尊重すること。干渉しすぎない。個性を尊重し、特性を生かす
- ・自分自身が村に住み続け、村の誇りを持ち続けること
- ・意見交換や村民どうしの交流に積極的に参加し、新しいものに頼らず、経験豊かな先輩の方々のお話が聞ける場（機会）をつくり、そして継続したい。だれもが共有できる葛尾村であるために
- ・葛尾村に住む楽しみや生きがいを見つけ、日々穏やかに生活していく
- ・村をよくするために、機会があればより良い意見を述べ、関わりを持っていくことが大切
- ・それぞれの分野で頑張る人たちを微力ながら応援する
- ・生活しやすい施設等（店もそうだが、働く場所、家族・隣人と過ごす場所）
- ・生活する上での環境。仕事・医療・買い物・教育が整っていること
- ・よさ、素晴らしさを自覚し（しなくても）、なくさないこと、誇りを持ち幸せを感じるようにすること
- ・自然を大切にすること。子どもたちの将来のために、教師として教育活動に専念する
- ・将来の葛尾村を担う子どもたちの育成
- ・先ずは、自分自身が村の「よさ」を見つけること、次にその「よさ」を伝えていけることが大切
- ・若い世代の方々が移住・定住していただけるようにコミュニティの場を増やす、など

多くの方々が、自分の得意分野で、また置かれている立場で、努力したいことを挙げているのは素晴らしいことです。また、葛尾村の持つ魅力、素晴らしさを大切にするとともに、それら「情報等の発信」「PR」「交流」を通して、よりよい村づくりを目指していきたいと考えます。学校教育、社会教育の充実のため、他校との交流、異世代間の交流など、多様な交流の機会づくりに努めたいと考えています。



5. 村教委・幼少中学校等の取り組みについて



* 文が途中で切れています。ご容赦願います

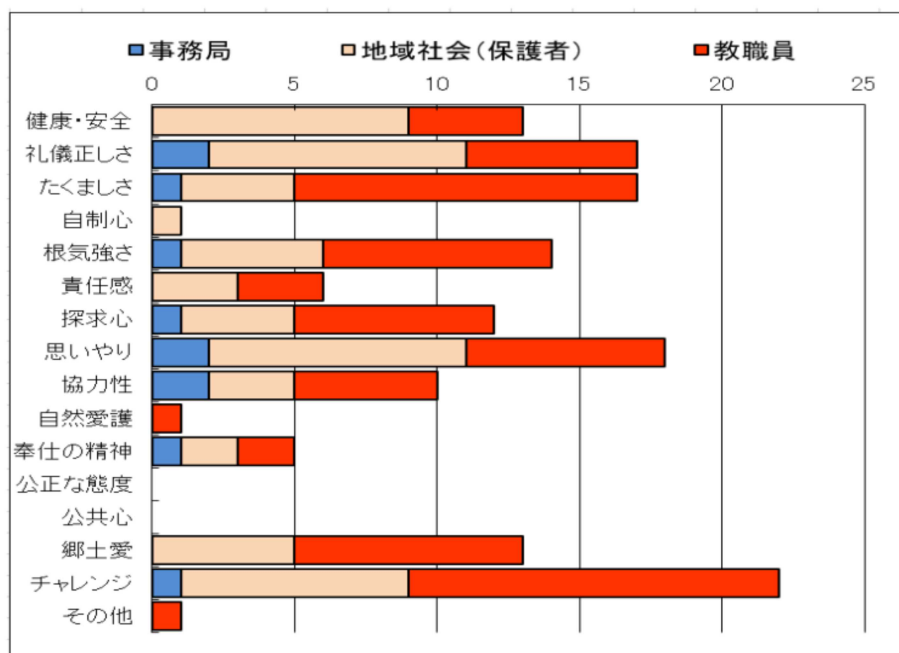
多くの項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」の評価を得ています。わずかですが、昨年度よりもさらにその割合が多くなりました。今年度もコロナの影響が大きく、「交流」に関わる項目がやや低い傾向にありました。

「公民館、図書室の整備と利用」は、毎年の課題です。今年度、「第2次葛尾村子ども読書活動推進計画」を策定しましたのでこれにそって推進に力を入れていきたいと考えています。



【幼稚園、小・中学校教育に関して】

1. 現在の葛尾幼小中学校の生徒に身につけさせたいことは、どんなことですか。



「チャレンジ精神」「思いやり」「礼儀正しさ」「たくましさ」が多く、「根気強さ」「健康安全」「郷土愛」と続きます。1位が「チャレンジ」、昨年1位だった「思いやり」が2位となりました。また、「たくましさ」と「根気強さ」が増加しました。

2 学校に対する意見、感想、励ましなど、どのようなことでも。

- ・保護者に常に寄り添って、問題があれば解決に向けて努力していただけることに感謝しております。子どもから、幼稚園や小中の先生の話などあるとほほえましく思います（垣根を越えていて）
- ・中学生の新聞投稿は、村への思いや自分の考えがよくまとまっていて素晴らしい
- ・教職員の方々には、少人数の学校教育初めての方もいることと思いますが、校長先生を中心に頑張っている姿が素晴らしいです
- ・ポスターとか、その他いろんなメンで新聞にも出ていて素晴らしいと思う
- ・少人数の中で、役割をきちんとこなし、将来像や地域をよく観察して、意見も発信できる考え方の内容が深いです。子どもたちに対する環境がいいのでしょうか。これからも続けてほしいです
- ・少人数で様々な困難なこともあります、子どもたち、先生方はよく頑張っていると思う
- ・子どもたちの教育のために、様々な創意工夫がなされていると思います。今後も継続していただきたい
- ・先生方が情熱にあふれていて、熱意を持って生徒に向き合っていることが素晴らしい
- ・子どもたちに寄り添った教育を実施していただいていると強く感じます。スクールフェスタでの小学生の生き生きとした発表は、とても印象的でした
- ・運動会やスクールフェスタなどの行事で、幼小中が連携して行えることが、とても良いと感じます
- ・スクールバス利用によって安全は確保されているものの、運動量や地域で遊ぶ学ぶ機会がなくなっていると感じます。難しいことだとは思いますが、見直しの機会を設けてはいただけないでしょうか、
- ・葛尾幼小中学校で連携して、情報交換ができていること。村民と学校で連携していること（コミュニティ・スクールなど）など



【社会教育に関して】

○ 葛尾村の公民館行事などで、改善点があれば。

- ・各種教室のメンバーが固定されないよう、通知だけでなく新規加入の声かけをやってみたら良いと思います
- ・休館日を休日に行わず、図書室の利用を気軽にできる雰囲気をつくる
- ・いろいろと事業を展開されていますが、若干マンネリ化しているのでは？新しいメニューを取り入れるのも、活性化につながるのでは
- ・村民の年齢を考え、参加しやすいカルチャーや運動の工夫を
- ・2023年は、村政100年。何かイベントは？
- ・帰村者、定住人口が少ないので、幅広い事業展開は難しいかも知れませんが、公民館事業や社会教育の重要性を踏まえ、実践することが大切だと思う
- ・村内在住者と村外居住者を対象にした事業の継続。さらに新たに村に入ってきた方々（外国からの方も含め）も対象にした、取り組みやすい、参加しやすい事業の実施。参加しやすい方策の工夫など
- ・素晴らしい企画がたくさんあると思います。コロナが減少していくことで、これまで中止せざるを得なかった行事なども、開催できるようになってくるとと思います、など

【教育全般を通して】

○ 教育委員会や公民館へのご要望等がありましたら、ご記入願います。（検討してまいりたいと考えます。お応えすることができないこともあることを、あらかじめ御了解願います。）

（保護者・地域住民・教職員）

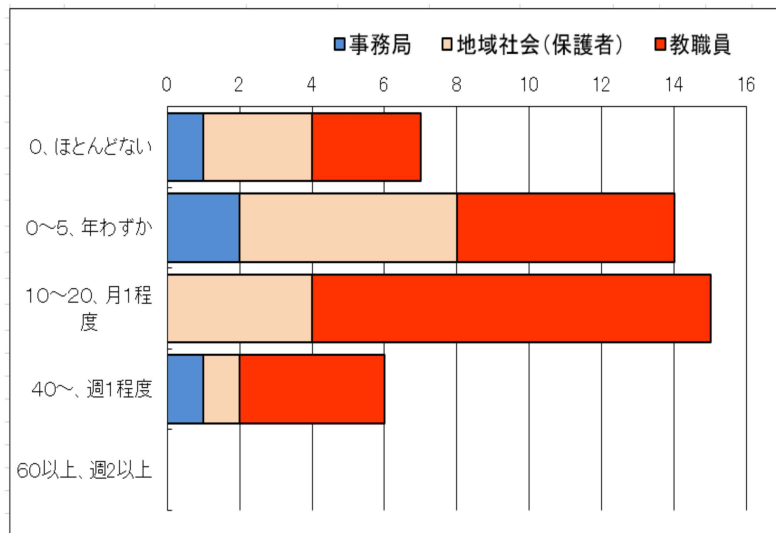
- ・「妊娠～出産～育児～教育」を一元化していただけると、住民として悩み相談しやすくなるのでありがたいです。出産後の乳幼児を預かる環境が整っておらず苦勞されている家族がおります。何とかご対応いただきたいです
- ・いろいろなメンで大変な環境の中で、教育長さん、公民館長さんはじめ職員の方々が、精一杯お勤めくださっていることに感謝のみです
- ・先ずは、今の事業（行事）の継続。そして新たな事業（行事）に取り組むための協議を、住民を取り込んで進めること
- ・広い年代を対象に取り組んでいて素晴らしいと思うので、継続していただきたい
- ・幼稚園の充実が、その後の学校教育につながっていくので、幼児の教育、健康、安全に、村をあげて対応し、村外に誇れるような施策を実施して下さい
- ・いつも大変お世話になっており、休日も野球等のために様々な仕事をして下さり、感謝しかありません。いつもありがとうございます。
- ・コロナ禍でなかなか住民が集まる機会が無く、要望も出しにくい
- ・譲り合いゾーンの標識の文字が劣化して見えなくなっている。もうすぐ葛尾小学校は創立150周年、中学校75周年では。何か行事は？ インターネット上の小中学校表記がおかしいです。小中一貫校になりますか？
- ・村内の放送（朝）で、その日に行われる行事（公民館や学校等）をお知らせすれば、もっと活動が周知できるのではないのでしょうか、など

アンケートへの御協力誠にありがとうございました。みなさんの温かな励ましが大きな力になります。次年度の計画づくりの参考にさせていただきます



【読書、趣味や習いごとなど】

1. 1年間に読む本の冊数は？

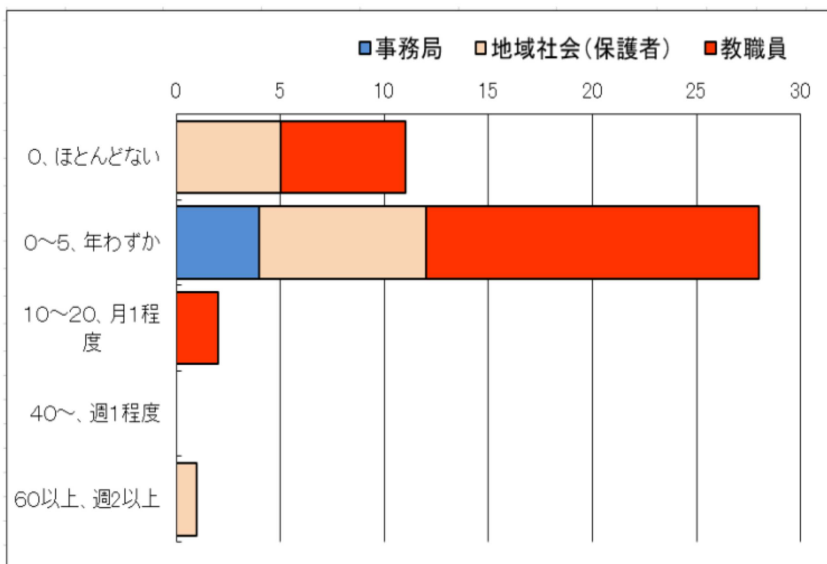


「0～月1冊程度」が、全体の半数で、前年度と同じ傾向です。大人が読書の楽しさを味わい、子どもたちにも伝えたいものですね。教育委員会としては、「第2次葛尾村子ども読書活動推進計画」にそって読書へ誘う活動にも力を入れていきたいと考えています。

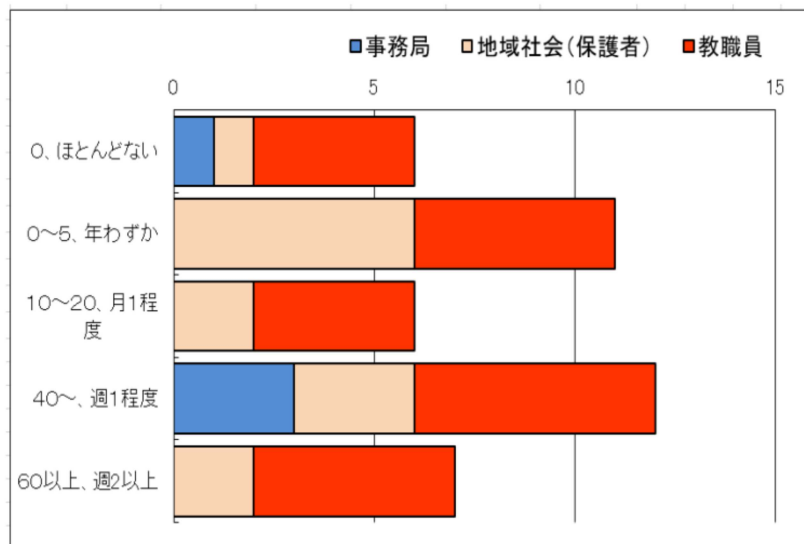


2. 文化・芸術に直接触れる機会は？

「年にわずか」が、全体の3/4近くを占めています。コロナの影響も気になるころではありますが、数は多くなくても、公民館事業等で学習の機会が提供できないか考えていきたいと思っています。



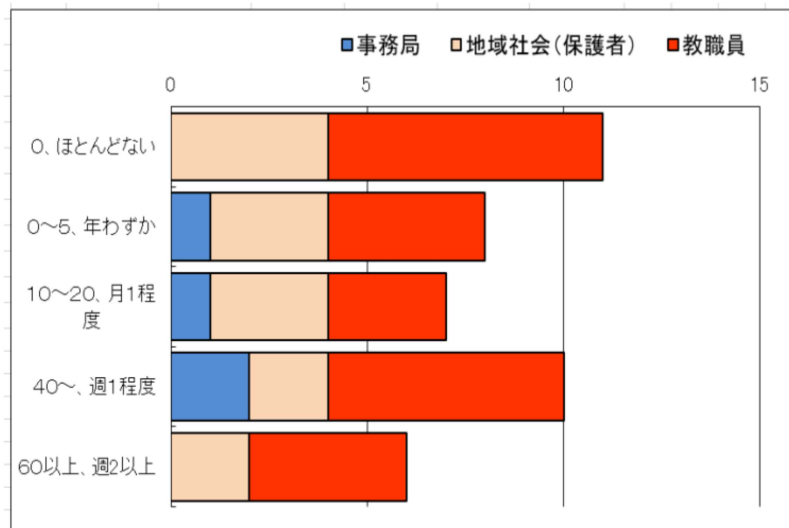
3. スポーツや運動をする機会は？



文化的な活動に比較するとスポーツや運動する機会は多いようです。ただ、「ほとんどない」「年にわずか」という方も4割程度いらっしゃいます。コロナの影響も大きいと考えますが、公民館事業等を通して、スポーツの機会づくりと交流の機会づくりに努めていきたいと思っています。



4. 習い事や趣味の活動は？

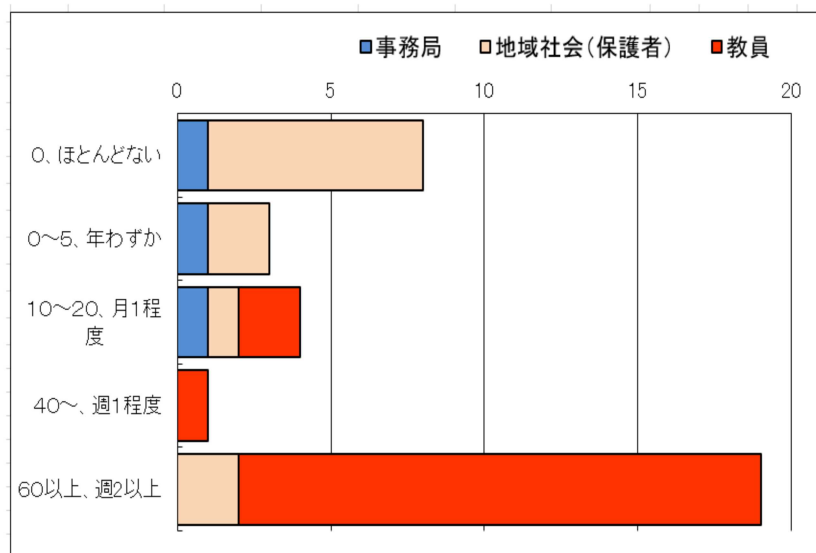


活動の内容はわかりませんが、趣味を持ち、活動している方がたくさんいらっしゃいます。「ほとんどない」方が、2割程度。仕事の関係と考えられますが、生きがいづくりと交流の機会づくりのため、公民館としても「カルチャースクール」等の内容を工夫していきたいと思います。

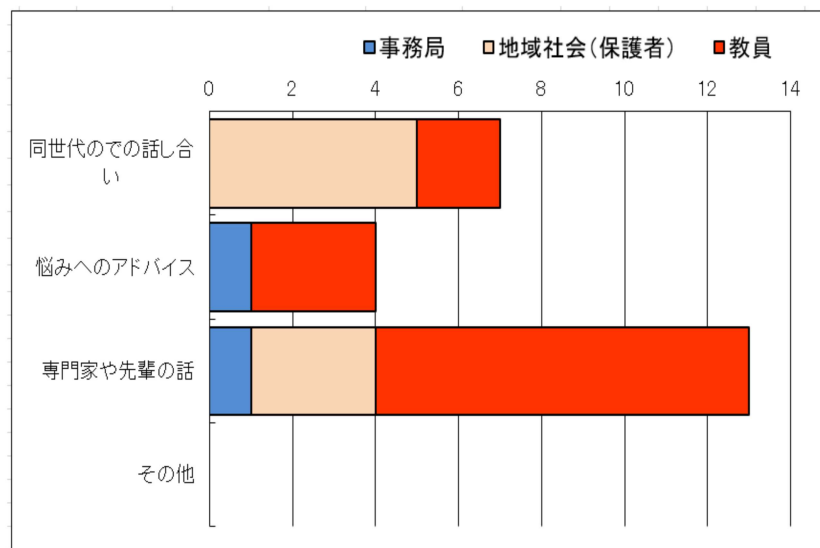


5. 幼小中学校の子どもたちとふれ合う機会は？

先生方を除いては、ほとんどの方が「ふれあいはない」「年わずか」と回答しています。このことは、子どもたちの側からも言えることです。学校の先生と家族以外のふれあいは少ないということ。コロナの影響によって対面の交流ができませんでしたが、その大切さを改めて考えさせられました。



6. 家庭教育に関わる行事や研修などで、このようなものがあれば参加したいと思うのは？



子どもを育てる悩みや不安に対して、それを話し合う場や機会があるといいですね。やっぱり対面で、心の内を話したいですね。幼小中学校や関係機関とも連携しながら、懇談の機会をつくったり、お知らせしたりしていくことを大切にしていきたいと考えます。

